

# 「今日はなにをする？」

## 遊びだって、勉強だって、やりたいことは自分で決める

校庭では、草野球やサッカー、フリスビー、鬼ごっこ、教室では、段ボールハウスづくりや、リボン編み、スライムづくり、電子ピアノ、風船遊び、宿題など、「まちとも」では、子どもたちがやりたいことを自分たちでルールをつくって楽しんでいます。

今回は、2016年度からモデル校として新しい「まちとも」事業に取り組んでいる、市立小中一貫ゆくのき学園大戸小学校の様子を紹介します。

### 外遊び



広大な芝生の校庭を使い放題。芝生に野球のマウンドの跡が残ってしまうくらい遊んでいます。



### 室内遊び



好きな材料を使って、世界に一つの作品を生み出しています。



### 学習活動



遊びの前にまず宿題。隣でわいわい遊んでいても、気にせず集中しています。学習習慣も自然に身につけています。



## 「まちとも」を支える地域の方々

ボランティアコーディネーター、元教員、保護者や地域の方々、大学生ボランティアなど、多くの皆さんが「まちとも」に関わり、遊びや学習のサポートを行っています。

「まちとも」での日々の思い出が、将来を担う子どもたちの町田への愛着を育てています。



学校と連携して

吉田真由美さん(まちとも部会長)

まちともは、子どもとじっくり向き合い、成長を見届けられるのがやりがいとなっています。学校を拠点とした地域再生というイメージで毎日の活動を行っています。施設利用のルールや児童のメンタルケアなど、さまざまな情報を学校と共有し、連携を深めています。



まずは見守る

藤野澄枝さん(ボランティア)

定年後に近所の方に声をかけられたのが参加のきっかけです。心掛けていることは、子どもたちが経験から学べるように活動の邪魔をせず、見守ることです。帰りに子どもたちから「楽しかった」という言葉を聞けるのが楽しく、私も若返った気持ちになります。



社会性を身につける

守屋裕一校長(大戸小学校)

のびのびとボール遊びをするなど、子どもらしく活動できるので、子どもたちに落ち着きが出てきました。異学年交流だけでなく、スタッフは、大学生から80代までいて、異年齢交流もできるので、大人との信頼関係も自然に築いています。昔の「下町」のような雰囲気ですね。



思いきり過ごす

金子大哉さん(大学生ボランティア)

地元の大学でボランティアサークルをしています。その一環で、まちともに参加しています。子どもたちは、その日の気分で、好きな遊びを思いっきりします。校庭でサッカーや野球をする子どものパワーを受け止めるのは大変ですが、子どもたちから元気をもらっています。



発想力にびっくり

田崎綾子さん(大学生ボランティア)

教師を目指し、この学校で学習支援のボランティアをしています。図工が苦手な子どもが、みんなにつられて工作を始める姿をみるとうれしくなります。気まぐれにふくらませた風船で、ボール遊びを始めたり、顔を書いてみたり、遊びのルールをつくったり、いろいろな発想に出会えます。

## 地域の人たちも、学校の先生も、みんなを待ってるよ!

地域の皆さんで「まちとも」をつくりませんか?

運営協議会の一員として運営を担う方や、実際に日々の子どもの遊びの見守りを行う方など、地域の子どもの成長を支えていただける方を募集しています。詳細は、まちだ子育てサイトをご覧ください。

Qまちだ子育てサイト まちとも 検索

2017年度実施校は、大戸小の他、町田第一小、町田第二小、町田第三小、町田第六小、本町田小、鶴川第一小、忠生第三小、小山中央小、相原小です。

紙面で伝えきれない魅力が満載! 続きはまちテレで

5月1日から31日まで、「放課後は新しい『まちとも』に集合!」でも魅力をお伝えしています。

Qまちテレ 検索

